

(様式第1号)

## 自己評価及び外部評価結果票

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170100459		
法人名	有限会社ライフ・シップ		
事業所名	嘉瀬紀水苑		
所在地	佐賀市嘉瀬町大字荻野698番地		
自己評価作成日	令和4年2月24日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp">www.kaigokensaku.mhlw.go.jp</a>
-------------	--

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	令和4年3月25日	外部評価確定日	令和4年4月28日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>ご利用者様やご家族様が安心して過ごされるように支援に努めています。また「楽しく」「なごやか」「すこやか」をモットーに、ご利用者様と全職員が、日々一緒に過ごしています。天候の良い日には日課の近隣散歩に出かけて季節を感じて貰っています。苑外活動で森林公園散歩、初詣(伊勢神社)参拝、佐賀空港見学、ひまわり見学、コスモス見学、桜花見、彼岸花見学、嘉瀬川ダム見学等に出かけて楽しまれました。地域交流クリスマス会(地域の子供たちとクリスマス)を楽しみました。地域交流おしるこ会や中学生の福祉体験がコロナ感染予防で自粛させていただきました。コロナ感染が終息したらまた地域交流おしるこ会や中学生の福祉体験等再開させていただきます。</p>
---

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>開設21年目を迎えている事業所である。代表者自身の介護経験から、家庭的環境と地域住民との交流の下で、認知症の方との関わりを深めたいとの思いで開設されている。その思いは今も同じで、コロナ禍の現在でも、原点として引き継がれている。</p> <p>玄関前の花壇には、利用者と一緒に育てている幾種類もの季節の草花が、利用者は勿論のこと、家族や近所の方をも和ませしてくれる。苑の周辺は、おだやかな田園風景が広がり、近くには森林公園もあり、日常の散歩や外気浴には、最適の環境である。また、秋の風物詩である熱気球の飛来を苑から直接に見学ができる。利用者は、パイロットに手を振るなど、熱気球を楽しんでいる。利用者が思い思いに過ごす時間が多いいリビングは、壁や天井が白色のクロスでリフォームされ、天窗からの自然光や二重窓の効果と相まって、明るく静かで素敵な空間となっている。</p> <p>管理者は、利用者と共に職員にも温かい目を向けている。「よい人材になるための七つの条件」を語りかけ、「利用者」と接することで、職員自身も人格が磨かれる」と感じている。それが、利用者主体の日常の支援に結びついている。</p>
---

# 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義をふまえた理念を全職員とつくり、その理念を共有して実践につなげている。	開設時の理念を、全職員で再検討し、現在の理念を創っている。理念は職員の日につく場所に掲示され、職員の意識づけを図っている。理念の具現化のために、年度当初に利用者との関わり方の具体的な目標をたて、理念の実践に結び付けている。また、管理者は「よい人材になるための7つの条件」も語りかけながら、理念の共有と資質向上を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として自治会への参加や「子供110番」、地域の子供たちとクリスマス開催、また、地域の方が気軽に苑に立ち寄って頂けるように、日常的に交流しています。コロナ感染予防で今は、自粛させて貰っています。	開設当初から地域の自治会に加入し、地域との親しい付き合いがある。地域の清掃作業やリサイクル活動等にも参加している。コロナ禍以前は、中学生の職場体験を受け入れたり、中学生が立ち寄ることもあった。コロナ禍が一時落ち着いた時期に、地域の子供たちやお母さんも参加してのクリスマス会が開かれている。地域の方から、野菜やイチゴの差し入れがあるなど、地域とは日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて高齢者の方々に暮らしに役立てることが無いか話し合い地域貢献に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、ご利用者様、ご家族様、地域包括支援センター様、民生委員様、自治会長様のご出席して頂き、苑だよりなど回覧して頂いたり貰っていたが、今はコロナ感染予防で自粛しています。	保険者の了承を得て、書面による開催を含めて、6回開催している。開催時期も、区長の協力を得ての防災訓練や、地域住民を招待してのクリスマス会と組み合わせる等の配慮をしている。本年度はコロナウィルス感染防止のため、以前の様な会議形式は困難であったが、苑だよりを含む情報資料等を送付して、意見をもらっている。地域からの情報は、メール等でもらうことが増えてきた。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者と日頃から連絡を取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みなどを積極的に伝えながら、苑でできること等を伺い、協力関係を築くように取り組んでいる。	管理者は、電話や直接行政担当課に向向いて、課題解決のための相談や、情報等を尋ねている。コロナウィルス感染防止対策やワクチン接種に関する件、利用希望者の情報等、利用者の支援に関わる事柄が多い。行政とは、常に連携が保たれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が勉強会、研修会で身体拘束をしないケアを理解して、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関の施錠は、夜間の戸締りのみです。外に出られた利用者様には、必ず職員と一緒に出て暫く散歩したりしている。	入居契約時に身体拘束の無い介護支援について、指針をもとに説明している。これまで身体拘束の事例はない。職員は、年間計画による4回の勉強会や外部研修を重ね、拘束の無いケアについての意識が高い。スピーチロック(言葉による拘束)も無いように、十分に留意している。玄関の施錠もなく、職員が目配りや外出希望には、一緒に同行しての支援である。特に外出願望が強い方には、家族や医師に相談しての支援例もある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員が勉強会、研修会で高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者様の身体の状態を入浴時に観察して防止に努めています。また、言葉遣いにも注意しています。スピーチロックをかけないようにしています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会や研修会で、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、必要な方には活用されるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご利用者様やご家族様との契約の締結、解約又は改定等の時は、十分な説明を行い理解と納得が得られるように、また、不安や疑問点を尋ねて理解と納得をして頂くよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者様やご家族様が意見や要望、ご不満、苦情等言って貰えるような雰囲気づくりに努めている。また、全職員が意見や要望をどうしたら反映できるのかを話し合いながら努めている。	家族の面会が多く、直接会話ができる機会として大事にしている。時には複雑な気持ちを抱いて来所する家族もあり、その心情を十分に察して対応している。アンケートでも、利用者や家族の要望をよく理解し、柔軟に対応している姿勢が窺える。コロナ禍で面会に制限がある中でも、お互いに顔が見える状態での面会方法を工夫している。毎月、届けている「苑だより」に利用者毎に一文や、表情がわかる写真を添えている。電話やメール等での連絡も密にしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送りに参加したり、勉強会ミーティングの時に職員の意見や提案を聞く機会を設けて運営に反映させている。	管理者は、毎日の業務引き継ぎに必ず参加し、職員の声や利用者の状況に耳を傾けている。毎月の会議には全職員が出席し、自由に意見が交わされている。利用者一人ひとりの支援への共通理解、実施した行事の反省と今月の行事計画、年間計画による勉強会等、その内容は充実している。 また、代表者は、向上心をもって働きやすい職場環境づくりや資格取得の支援に努めている。外部での研修には、参加費用を助成している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力や実績、勤務状況などを把握し、給与水準、労働時間、やりがい等、各自が向上心を持って働いて貰えるように、職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や働きながら学ぶ事を進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員が同業者と交流する機会を作り、勉強会相互訪問等、活動を通じてサービスの質を向上させていく取り組みに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、ご本人が困られている事、不安なこと、要望などを聞く機会を持ち、ご本人の安心を確保できるように関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に、ご家族様等が、困られていること、不安なこと、要望等をよく聞く機会を持ち、ご家族様等の安心を確保できるように関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時に、介護保険申請がされていない方、医療的に必要な方、施設に慣れるか心配な方等に、適した対応の方法をご説明し支援を見極め他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人と一緒に過ごし喜怒哀楽を共にし、ご利用者から、色々と学ぶ機会が多く、暮らしを共に過ごし支え合う関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の訪問があり、一緒に外出されて買い物、墓参り、自宅に行ったりされるなど本人とご家族の絆を大切にしながら、共にご本人を支えて行く関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人がこれまでに大切にされてきた馴染みの方、知人、ご近所の方住職様等との関係が途切れないように、支援に努めている。	入居までの諸情報を十分に生かしての支援である。コロナ禍の中ではあるが、手紙や携帯電話でのやり取りを支援したり、病院受診の帰りに馴染みのある所まで足を伸ばすこともある。これまで親しんできた熱気球見学は、毎年の楽しみである。今は、コロナ禍で自粛中であるが、これまでは近所の方や友達の訪問も支援していた。また、家族の協力を得ての一時帰宅や、彼岸のお墓参りをする利用者もあった。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立されないよう利用者同士が関わり合い、また、支え合えるような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了した後も、熱気球が飛ぶ時期に来苑されたり、差し入れを頂いたりしてこれまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて相談や支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。全職員で情報を共有し、ご本人の意向に出来るだけ沿うように努めている。	利用者の心に寄り添いながらの支援である。利用者が心を開いて本音を話してくれるのは、入浴中や居室で寛いでいる時が多い。また、利用者のつぶやきや、動作、表情の変化などから、思いや意向を察している。利用者の担当制を採り、親身になっての支援は、利用者から信頼を得ている。得られた情報は、職員皆が共有し、支援に結びつけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、情報収集し生活歴や生活環境、馴染みの暮らし方、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者様の一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状把握に努めている。また全職員で共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	事業所用方式アセスメント表を用いて、ご本人がより良く暮らして頂けるように、課題とケアのあり方について、ご本人、ご家族、必要な関係者と話し合い、モニタリングし、それまでの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	どのように暮らしたいかの意向を反映した介護計画である。日々の支援の中で利用者の希望を汲み取り、具体的で実現可能な利用者主体の計画が作成されている。毎日の利用者の状況や支援の実際は、きちんと記録されている。担当者会議には家族も参加、参加できない場合は、事前、事後に意向を確認している。計画の見直しは、入居して間もない時期は毎月、その後は3か月毎、6か月毎にきちんと行い、利用者にとって、より良い介護計画であるようにと、柔軟に対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者様の日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者様一人ひとりを支えるために、ご家族の状況、その時々生まれるニーズや要望に対応して、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご利用者様一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、地域のボランティア、民生委員、消防署、消防団等の方と協働しながら、ご本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人及びご家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医が、往診、受診されて事業所との関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	利用者や家族が希望する医療機関での受診である。現在は、利用者全員が協力医療機関での受診である。往診もあり、すぐに駆けつけてもくれる。夜間も受診が可能で、診療科も多く、利用者や家族も医療面に安心感を持っている。受診にあたって、家族が都合が見つからない時は、職員が同行、支援している。 歯科医は訪問歯科での受診で、何時でも訪問診察ができる。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、身体状態、経過等を看護職員や訪問看護師等に伝えたり、相談したり、ご利用者の健康管理や医療活用の支援に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	ご利用者様が入院された時は、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院出来るように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。またそうした場合に備えた連携に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご利用時の早い段階から、ご本人、ご家族等との話し合い、重度化した場合や終末期の看取り指針について事業所で出来る事等を説明し同意を得ています。かかりつけ医と地域の関係者と共に支援に取り組んでいる。	詳細に、きちんとしたマニュアル「重度化した場合及び看取りの介護の実施に関する指針」を備えている。職員は、勉強会でその内容を確認している。利用者や家族とは契約時に納得のいく話し合いを持っている。看取り介護ができることも話しているが、実際に、これまで看取り介護の事例は無い。事業者の隣に管理者の自宅があり、夜間に利用者に急な状況の変化があった場合には、管理者がすぐにその場に臨むことができる。夜勤者の不安も軽減されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ご利用者様の急変や事故発生時に備えて、全職員が、応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけるように努めている。		



自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地震や水害等の災害時に備えてご利用者様が、避難できるように訓練で全職員が身につけるように、また、地域との協力体制を得られるように努めている。遠くの避難所より近くの隣人と協力関係を築いている。	年に2回、夜間の火災を想定した避難訓練を実施している。消防署も立ち合い、自治会会長、地元消防団員も参加している。消火器業者も招き、消火器の使用方法的な訓練もしている。水害等の自然災害を含めて、地域の協力を得られる信頼関係を築かれている。行政からの災害対策についての調査もあり、非常食や飲料水の備蓄や、大雨時の垂直避難についても留意がある。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様一人ひとりの人格の尊重し、誇りやプライバシーに配慮しながら、言葉かけや所在の把握を確認しながら安全に過ごされるように対応している。	利用者一人ひとりの個性や尊厳を尊重することをすべての支援の基本としている。利用者のこれまでの人生経験から得た密かな誇りも大事にしている。利用者と職員は、人と人との付き合いでもあり、職員自体の人格形成にもなっている。言葉遣いに方言(佐賀弁)を使うこともあるが、管理者は、意思の疎通を欠かぬようにと言葉遣いについても助言している。プライバシーの確保についても運営規程のとおり守られている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中でご本人の希望や思い、自己決定が出来るように働きかけている。自分で決めたり、納得されながら過ごされている。強制や押しつけの支援とならないようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的には一日の流れは決まっているが、一人ひとりのペースを大切に、体調、気分にも配慮しながら希望に沿った支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい理美容は、訪問にて支援させていただいている。ご利用者様も気に入っておられる。身だしなみやおしゃれが出来るように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	楽しい食事になるように一人ひとりの好みや形態、量等、力を生かしながら、利用者様と職員と一緒に食事、下膳、後片付け等している。	薄味で、高齢者向きの美味しい食事が出されている。職員も一緒に同じ食事を摂りながら「ゆっくり食べてください」等の声をかけ、それとなく見守っている。職員と一緒に野菜の下ごしらえをしたり、下膳をする利用者もある。献立は、食べたいものを尋ね、それに応えている。誕生日の手作りケーキは、利用者に喜ばれている。苑が多忙な時は、近所の方が調理の手伝いに見えている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者様の一人ひとりの食事摂取量や栄養バランス、水分量(食事以外で1,000cc)が一日を通して補給されるように形態、品を変えて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを一人ひとりの口腔状態やご本人の力に応じた口腔内の清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、言葉かけやトイレ誘導が必要な方等、支援している。ご本人の習慣を活かしながら、トイレでの排泄や排泄の自立に向けての支援に努めている。	日中は、できるだけトイレでの排泄ができるように支援している。チェック表や観察で一人ひとりの排泄パターンや排泄の事前兆候が把握されており、それを活かして、さりげない言葉かけでトイレでの排泄を誘導している。入居後に、おむつからリハビリパンツになった利用者もいる。トイレ内の手すりや補助具も自立を助けている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や運動への働きかけ等に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は一人ひとり、ゆっくり入っていたいでいる。希望やタイミングに合わせて入浴を楽しんで貰えるように安全に配慮し、支援している。	週に3回の入浴を基本としている。お湯の準備は毎日できているので、入浴日以外の希望にも柔軟に対応している。暗くなってからの入浴を望んでいた利用者も、今は昼間の入浴が気持ちが良いと言っている。また、最初は同性による入浴支援を希望していた方も、今はそれにこだわらずにゆっくりと入浴している。しょうぶ湯や柚子湯で季節を感じてもらっている。入浴剤は、肌に合わない方もあるとの医師の助言で、使用していない。衣服の着脱が自分なりにできる方には、見守りながらの支援である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息されたり、休憩、睡眠を取って貰っている。安心して気持ちよく眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが使用されている薬の目的や副作用や用量について理解に努めて、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、好きなこと、気分転換、散歩や買い物、気晴らし、外出支援、嗜好品等の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候の良い日には、戸外に出かけたり近隣散歩、苑庭花見やひまわり見学、桜花見、空港見学、コスモス見学、森林公園の散歩、嘉瀬川ダム見学等出かけて支援している。また希望を把握し、ご家族や地域の方と協力しながら支援に努めている。	コロナ禍ではあるが、利用者の希望で、他の方と会わない苑の周りを散歩したり、花壇の手入れを楽しんだりしている。近くの森林公園まで出かけることも多い。佐賀の風物詩、熱気球を苑から楽しんでいる。車から降りないでの希望の場所までのドライブも実現している。コロナ禍以前は、家族の協力を得ながらの外出もあったが、現在は自粛している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人で管理できる所持金。ご家族様の要望に応じた支援に努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や姉妹や大切な人へ手紙、はがきを出されています。また電話をかけた電話が来たり、やり取りができるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	幹線道路沿いのために車音、暴風音等の騒音防止で二重サッシ窓、ホールの天窓から優しい光を取り入れている。また季節のポスター、大きな曆を設置し、良く見えるように工夫している。	利用者が日中過ごす時間が多いリビングは、壁のクロスを白色の物に張り替えている。天窓からは自然光が差し込み、極めて明るい空間となっている。外からの騒音も聞こえず、静かな室内である。浴室、トイレ、廊下等も安全面には常に留意している。各居室と共に、窓を開けての換気もしっかりと行われている。大がかりな作業にもなるが、ダニ等の害虫駆除のために、バルサンでの室内消毒を行っている。掃除が行き届き、清潔感がある。特有の臭いも全くない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士が、思い思いに過ごされるようにソファや椅子を利用して過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、ご本人やご家族様と相談しながら、馴染みの物、仏壇、好みの物、囲碁、将棋盤、テレビを持参されている。ご本人が居心地よく過ごされるように工夫されている。	各居室とも家族の協力と職員の工夫で、落ち着いて過ごせる所となっている。ベッド、クローゼット、夜具類、利用者が馴染んできた物や趣味の道具、利用者が希望した品物等で室内が構成されている。支援を得ながら、好きな胡蝶蘭に水をやったり、仏壇に手を合わせたり、自作の作品を飾る等、その方の人となりを思わせる居室である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの「出来ること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように支援している。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)  
 ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。  (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。  (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。  (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。  (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。  (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。  (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない